

南十字星創刊60周年記念 会員エッセイ

The Southern Cross 60th Anniversary Member Essays



会員の皆様より「日本人会と私の思い出」をテーマにしたエッセイをご応募いただきましたので、ご紹介させていただきます。

「日本人会とぼくの思い出」

ぼくは、日本人会のどうこう会かつどうのラグビークラブでラグビーをならっています。そこにはぼくより大きいお兄さんたちがいて、ぼくと同じ年ぐらいの友だちは今は少なくなっていました。

はじめて、シンジャパのれんしゅうに行ったときははずかしかったしルールがよく分からなかったのでふあんになりました。だけどぼくにはお兄ちゃんがいたので、お兄ちゃんがなかよくなった友だちとぼくも友だちになりました。また、コーチもやさしく教えてくれました。するとふあんな気もちがなくなって、ラグビーを楽しいと思うようになりました。楽しいと思ってつづけていたらステップがふめるようになりました。そして足もはやくなったのです。

昨年ぼくは「がんばったで賞」をもらいました。ちなみにシンジャパのチーム以外でもラグビーをしているのですが、そのチームでも年間MVPをとりました。これは、ぼくがステップが上手になってたくさんトライを取れるようになったからだと思います。

もし日本人会ラグビークラブに入っていなかったら足がはやくないなかったかもしれないし、友だちもふえていなかったかもしれません。

ラグビーをはじめて友だちもできたし、MVPももらえたのでシンジャパに入れてよかったです。

小畠敦晴(シンガポール日本人学校小学部チャンギ校、三年生)